

花巻カルチベート 耕し育てる図書館「知識の環」でつながる文化と人とまち
花巻の地で宮澤賢治が生まれ、学びを教室から田畑や夜空へ開いた「**学びを外へ開く**」精神を受け継ぎ、**発展・循環させる図書館**を提案します。環状でつながる空間は「**知識の環**」として文化と人とまちをつなぎ、その循環から知識や出会いが生まれます。こうした広がりには、まさに「**カルチベート（耕す）**」という行為に重なります。それは物事を育み、能力や関係を発展させたりすることを意味します。新しい図書館によって**まいた種（知識）が成熟して実り、成長につながる、その実がまた新たな種を生み出すという一連の好循環が生まれる**ことを目指します。

○郷土の歴史と独自性を大切にし豊かな市 文化を創造する図書館

広場を囲む環状図書館・花巻カルチベーターの配置・カルチベーターの種

花巻の**豊かな文化や歴史を継承**しながら、**新たな文化を育み、継続**させるために「**広場を囲む環状図書館**」「**花巻カルチベーターの配置**」「**カルチベーターの種**」を展開します。これらの仕組みにより**発展・循環させる図書館**を構築します。

広場を囲む環状図書館

イベント**広場を最大限残し**広場を囲むような**環状の図書館**を配置します。図書館を巡ることで**様々な人との出会いや知識の広がり**を生み出します。

花巻カルチベーターの配置

自らの知識や情報を企画・展示する**キュレーターのような人**を募集します。新図書館各所に配置し**訪れる人々と知識／文化／人などをつなげる役割**を担います。

カルチベーターの種

カルチベータ（CV）の**情報発信**や**新たな CV の発掘・継続・発展**、利用者との**コミュニケーションの誘発**を目的とした仕掛けを展開します。

カルチベーターの種①

図書館検索システムとカルチベーターの運動
本を検索するときカルチベーター（CV）のおすすめ図書を運動させたり、CVを検索できるようにします。

カルチベーター

イーハートブカルチベーター
会いに行く

検索する 利用者
CVを知る

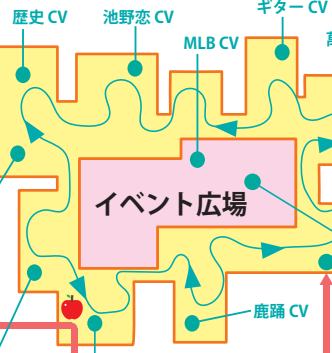
カルチベーターの種③

カルチベーターの菜
CV や利用者がおすすめの本にQRコードを印字した菜を挟み、本に関連した CV の活動内容を知ることができます。

カルチベーター

菜を挟む
菜をみつけて CVを知る
会いに行く
利用者

広場を囲む環状図書館



カルチベーターの種②

カルチベーターブック
カルチベーター（CV）が活動内容や知識の一部をまとめ、誰でも見ることができる本を作成します。

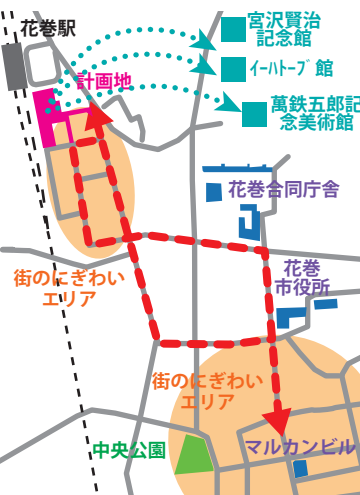
カルチベーター
活動内容作成
会いに行く
利用者
知識を得る
CVを知る

カルチベーターになる
カルチベータートラック
カルチベーターの居場所や目印となるブックトラックを模した移動式の家具。ここで活動を展開します。

○すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館・開かれた都市広場

広場を囲みながら街との連続性を生み出す

街へいざなう動線



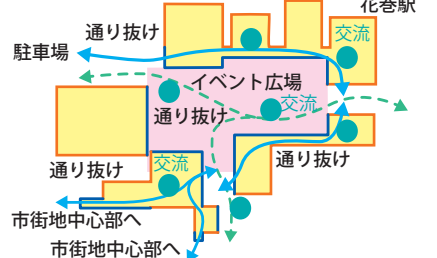
花巻市内に広く点在する**文化施設**などを緩やかにつなぐ**出発点**となるような計画とします。さらに計画地から街の**にぎわいエリアへいざなう**ような配置計画とし、**既存の街との連続性**が生まれ、**街の活性化**につなげます。

広場と街を考慮した配置

イベント広場面積が大きくとれ広場と連続しながらも**街へ通り抜けられる配置**とします。**建物の接地面積を極力小さく**することで、広場の**融雪装置の改修面積**や**基礎の掘削面積**も**極力小さく**し、**建設コストを削減**した計画とします。

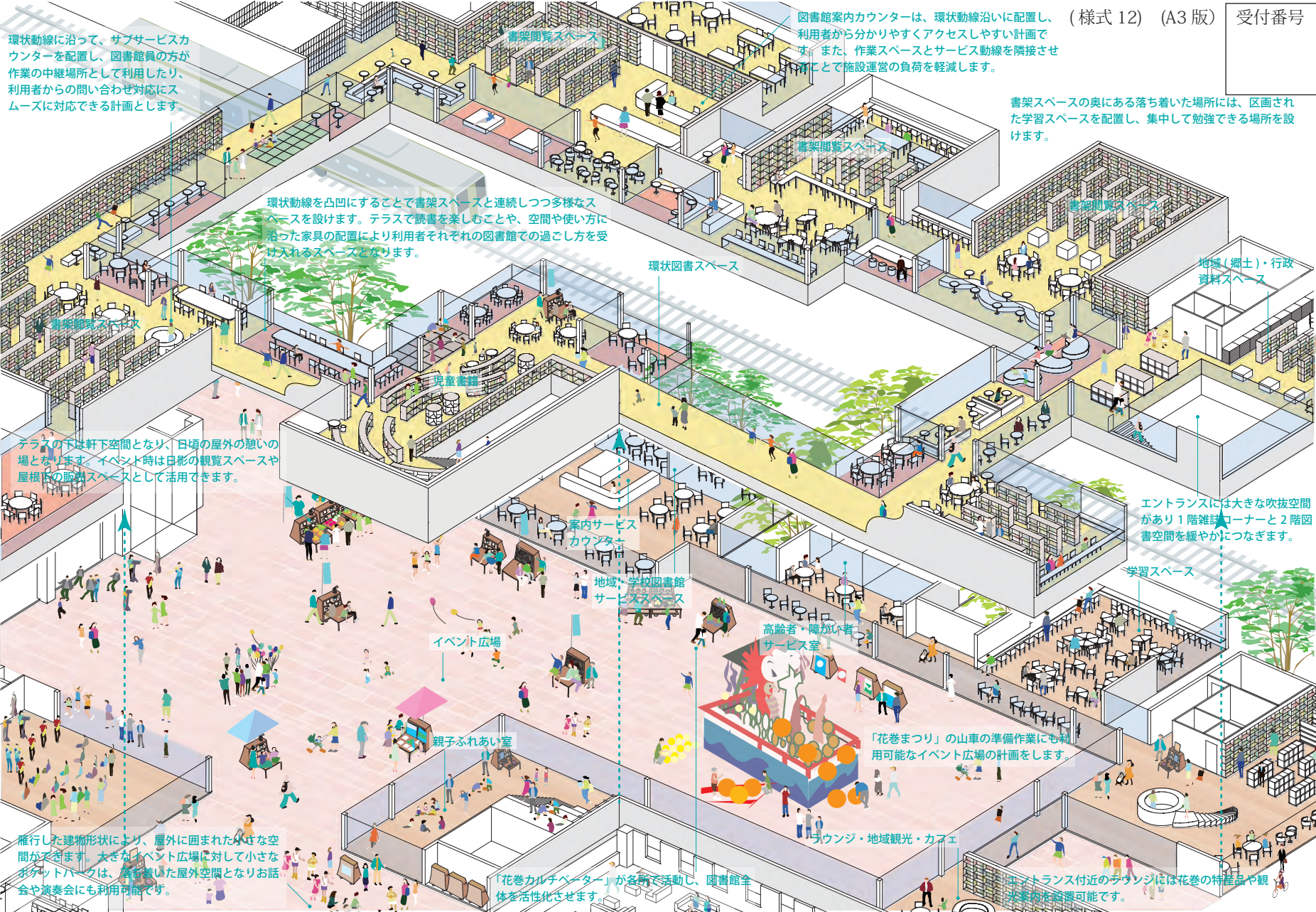
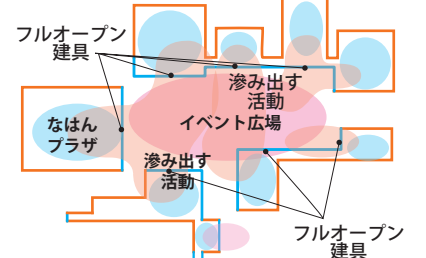
通り抜け交流スペース

1 階の交流スペースは花巻駅や駐車場、市街地中心部へ**通り抜け通路状**にし、通路沿いでさまざまな活動が展開されることで、訪れる人々の**交流のきっかけを生み出します**。



イベント広場との一体的な利用

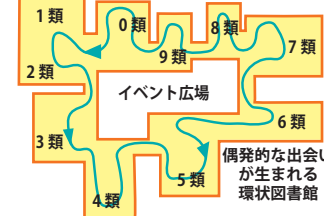
なはんプラザと連続して**広場を囲むように建物ヴォリュームを配置**します。なはんプラザと同じように広場側に大きな建具を設け**広場との一体的な利用が可能**です。



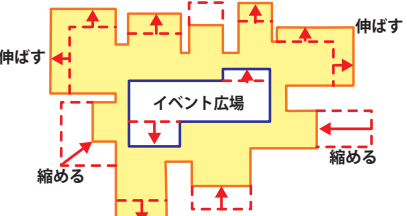
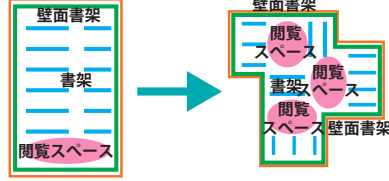
○暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館

知識の広がり・重層化を生み出す図書館

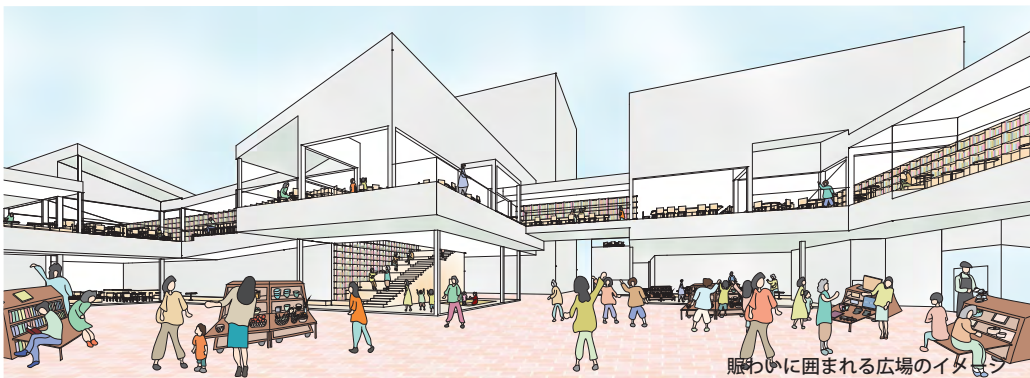
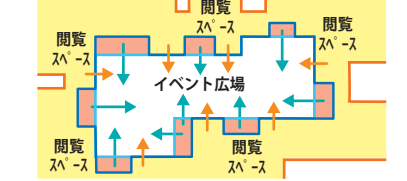
花巻市民に愛され活用され続けている**イベント広場を最大限残し**、それを**囲むような環状の図書館を配置**します。AI など自動的に好みが選別される現代において環状の図書館はそうした仕組みに頼らず**偶発的な知識や人との出会いを大切に**し、**知識の広がりや重層化を生み出します**。**日本十進分類法による分類の輪**環状の図書館は**日本十進分類法の環**とすることにより本を**直観的に探せ**利用者の**利便性を高めます**。

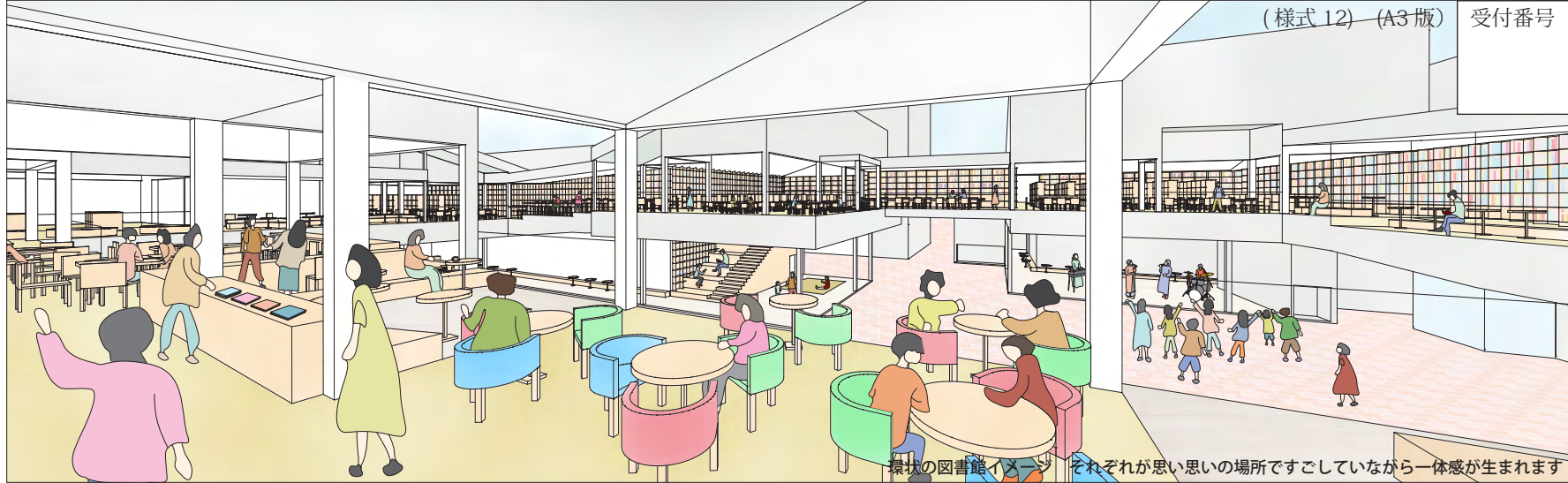


長い壁面書架により充実した閲覧スペース
外壁形状に合わせた**長い壁面書架**を設けることで同じ蔵書数で**充実した閲覧スペースを確保**できます。



柔軟な空間形成が可能なカタチ
必要な空間サイズや書架配置に応じて**柔軟な空間形成が可能**です。創出された**広がり**は**花巻の知識の好み**となります。

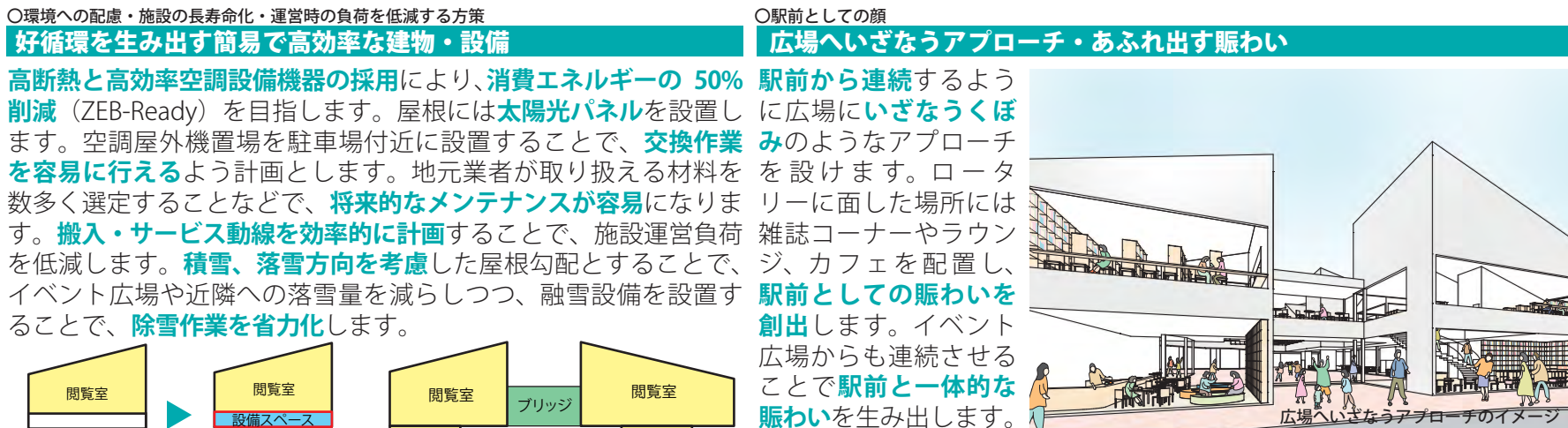




区分	面積
エントランススペース	205 ㎡
開架、閲覧スペース	2210 ㎡
閉架書庫スペース	800 ㎡
図書館業務スペース	510 ㎡
その他スペース	825 ㎡
計	4550 ㎡

2階平面イメージ

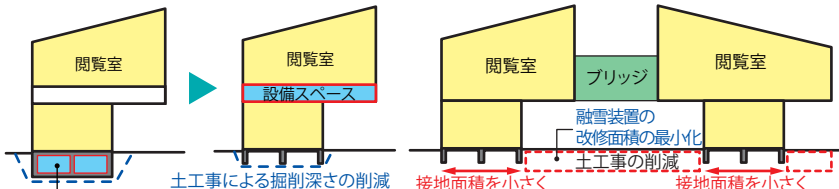
更新しやすい位置に設備機器を設置します



1階平面イメージ

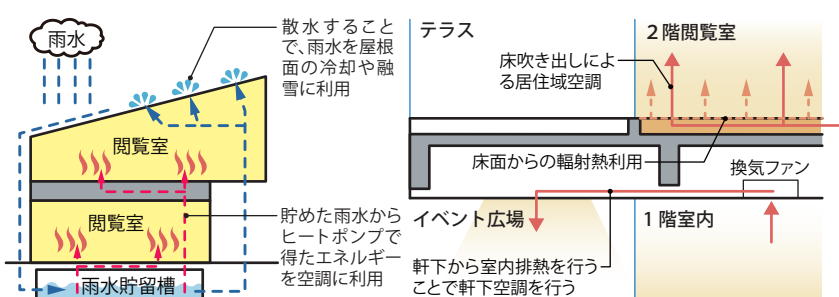
○環境への配慮・施設の長寿命化・運営時の負荷を低減する方策
好循環を生み出す簡易で高効率な建物・設備

高断熱と高効率空調設備機器の採用により、消費エネルギーの 50%削減 (ZEB-Ready) を目指します。屋根には太陽光パネルを設置します。空調屋外機置場を駐車場付近に設置することで、交換作業を容易に行えるよう計画とします。地元業者が取り扱える材料を数多く選定することなどで、将来的なメンテナンスが容易になります。搬入・サービス動線を効率的に計画することで、施設運営負荷を低減します。積雪、落雪方向を考慮した屋根勾配とすることで、イベント広場や近隣への落雪量を減らしつつ、融雪設備を設置することで、除雪作業を省力化します。



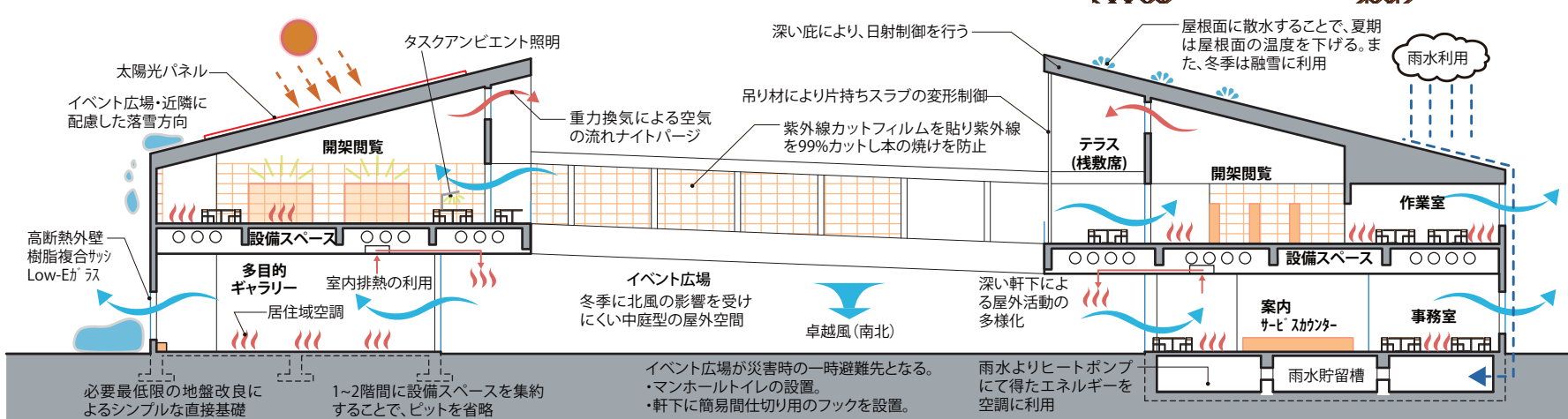
中 2 階設備ビット
1・2 階間の懐に地中設備ビットに代わる設備スペースを設け、**掘削深さの削減によるコストの省力化**に加え**更新やメンテナンスを容易**にします。

分棟とブリッジによる設置面積最小化
分棟にした建物ヴォリュームを**ブリッジで接続**し環状に繋ぎ、**設置面積を最小化**します。**コスト削減**や**工事期間中のできるだけ長い広場のイベント利用**を指します。



雨水によるエネルギー利用 雨水貯留槽に溜めた雨水を地下の安定した温度にすることでヒートポンプで得たエネルギーを空調に利用したり夏季の屋根面の冷却や冬季の融雪に利用します。

エネルギーを最大限回収する 室内空調の排気を広場側の軒下へ排出して半屋外空調に活用します。居住域空調の床吹に加えて床面の輻射熱も利用することで、エネルギーを最大限回収・活用します。



○駅前としての顔
広場へいざなうアプローチ・あふれ出す賑わい

駅前から連続するように広場に**いざなうくぼみ**のようなアプローチを設けます。ロータリーに面した場所には雑誌コーナーやラウンジ、カフェを配置し、**駅前としての賑わいを創出**します。イベント広場からも連続させることで**駅前と一体的な賑わい**を生み出します。



広場へいざなうアプローチのイメージ

補間し合う柔軟でシンプルな構造計画

主要構造は、鉄筋コンクリート造の分棟とし、地震や雪などに対して安全性の高い耐震壁付ラーメン構造とします。棟ごとをつなぐブリッジを鉄骨造とし、掘削量を減らします。分棟ごとに部材の最適化を行い、躯体量の低減をはかります。各棟をつなぐブリッジの鉄骨造は、フィレンディール架構のフレームを各棟から片持ち形式とブリッジ中央をピン接合としたゲルバー梁により、ロングスパンの梁を含め互いに支持します。2階の設備スペースを部材せいを有効活用することで、テラスのはね出しなどを片持ちで構成することが可能となります。

深い庇により、日射制御を行う

紫外線カットフィルムを貼り紫外線を99%カットし木の焼けを防止

屋根面に散水することで、夏期は屋根面の温度を下げる。また、冬季は融雪に利用

雨水利用

テラス (機敷席)

開架間覧

作業室

設備スペース

案内サービスカウンター

事務室

卓越風 (南北)

深い軒下による屋外活動の多様化

雨水貯留槽

熱交換機

災害時の一時避難先となる。この設置。

土切り用のフックを設置。

雨水よりヒートポンプにて得たエネルギーを空調に利用